



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター

Newsletter No.54 (2016.3.31)



池田寛子先生、退職メッセージ

国際学部の池田寛子先生は、平成13年度4月、前学長である藤本黎時先生の後任として広島市立大学に着任され、平成18年度から20年度まで語学センター専門委員長として、また、それ以降は、機器更新の検討メンバーとして語学センターと関わってこられました。3月31日でご退職になります。15年に渡る長い間、イギリス文化論や英米文学概論など、ご専門のアイランドやイギリス地域関連の授業を主に担当になり、語学センター教室では教室録画をされるなど、積極的に活用していただきました。

人生の先輩としての経験と貴重な言葉が散りばめられた学生のみなさんに是非読んでいただきたい池田先生からのメッセージです。

目次：

池田寛子先生、退職メッセージ「たからもの」	1
ミニコラム：芸術学部 鯨澤達夫先生	2
没骨・水中遠近法で描く、プールの初恋 パステリアン・ヴィヴェス『塩素の味』ほか	
名誉教授・芸術資料館もと館長 大井健地先生	3
課外インテンシブ英語学習プログラムを受講して	4
国際学部4年 音谷江梨香さん	4
留学アンケート更新	4

たからもの

国際学部准教授 池田寛子

広島市立大学に着任してからいつの間にか15年近くたちました。20代から40代になったということで、20代、30代、40代を経験したのもここだということになります。大学を卒業し、大学院進学、留学、塾講師や非常勤講師としての勤務を経て、初めての安住の地でもありました。

「友だちができるのは大学まで。働き始めると新しい友だちどころではない、プレッシャーをかけられ、業績を競わされるよ」などと、自分が大学生の頃に聞いたことがありました。学生の頃は、そんなものなのかな、と思っていました。「友だち」をどう定義するかはまた別の問題になって難しいのですが、よい出会いは生涯続きます。私は広島市立大学という職場で日々大切な出会いを積み重ねていきました。強制や監視などなくても自分にできる最高の仕事をしようとして続ける同僚たちがいました。辛い時に助けの手を差し伸べてもらいました。比較的女性が多い職場でした。専門領域や生き方や考え方が違って、共感しあえるところがあり、生きていく勇気をもらいました。強制しないことは私のゼミ生たちへの態度でもありました。ゼミでのリサーチや卒論の指導において、発表やレポートで「何か足りない」と思われる場合はそう伝えて、何がどう足りないのか、考えてもらいました。教えることよりも、自分で考えてもらうことに、私の重点はありました。一人ひとりがそれなりに成長していく姿を見守りながら、私自身がその姿に教えられ、支えられてきました。

教育と研究に明け暮れ、毎夏アイランドに調査に出かけ、自分でもう結婚はしないだろうと思うようになり、それからさらにしばらくたってから、結婚し、子どもを産みました。おなかに子どもを抱えての授業はたいへんでした。ひどい「つわり」に苦しむ日々でも教壇に立てば平然と話ができます。1時間半の講義を終えて研究室に戻ると、気力も尽きて椅子に倒れ込みました。育児休暇に入り、0歳児と暮らし、夜中に何度も起きる寝不足な日々を過ごしました。それでもしつこく自分の原稿に向かいつづけ、風邪をこじらせ、高熱を出しました。その時を記録した詩の断片：



池田先生、発展演習授業風景（語学センター、共同研究室）

肺炎になりかけ 咳がとまらない

おっぱいをやっけて
咳き込んだわたし
君はおっぱいを飲むのをやめて
二度手を動かした
とん とん
よし よしと
わたしをあやすように

おっぱいをのみながら
わたしの手の甲をずっとなでている
わたしのこどもの手

保育園や児童手当などのためにたくさん書類を用意しました。人がひとり育つのがどれほどたいへんのかを思い知らされつつ、子どもは私が生きる力になりました。子どもは宝よ、と皆に言ってもらいました。それでも子どもが寝ている間が稼ぎ時。仕事と育児のあいだでの葛藤は続きます。

(P2へ続く→)

ミニコラム 外国語に想う【46】

芸術学部 教授
鰐澤 達夫

「語学が少し出来ると、年をとって得をする?!」



30年以上前の事なので、記憶が定かとはいいがたい。表参道にある、現在の森英恵ビルの前の、昔のビルの時代にマンツーマンでイタリア語を習っていた。ダンジェロという名前の先生で、天使という意味の美しい方だった。当時の僕は、留学の為の資金をアルバイトで稼ぎ、遅刻ぎりぎり教室に飛び込むといったまじめ?な学生だった。とは言え、表参道にある語学学校で、マンツーマンでは、お金がいつまで続くかは見えていた。3ヶ月ぐらいいは、通ったのだろうか?当時は、イタリアルネッサンス絵画に興味があり、修復の勉強がしたいと思っていた。だが、ローマ中央修復研究所もフィレンツェも入学の為の厳しい条件があった。外国人枠は、イタリア在住5年以上、5名枠、3年間修復

の勉強した後は、イタリアに住んで仕事をする事も条件だった。今考えれば、日本の国宝を外国人が修復するのと同様で、多額の税金をつぎ込んで、ハイさようならと母国に帰られたら、たまったもんじゃないだろうと思う。特にイタリアは、全てが国宝と言っても過言ではない。要は、イタリアに渡ってから、アパートを捜す為に、朝早く起きて辞書を片手に情報誌を訳して、パトロンに直接電話をして、部屋を見せてもらう等、実践から、語学を学んだのだろう。イタリアでも語学学校は行けなかった。剣道が4段、居合道4段だったので、アルバイトでは、まあ稼げて、フィレンツェからミラノにマンション付きで呼ばれたりもした。その時だけは、なんかブルース・リーの様だなと思った。いろいろあった2年間の留学体験は、けっして長いとは言えないが、今の僕のすべてに影響を与えてくれた国と言っている。今のワイン好きもそうだろう。海外出張のあとイタリアに寄る事が多いが、語学が出来るだけに今でも安心で、バカンスを堪能できる、少しだけしゃべればこの年になっても幸せなのである。

(P1 から続く)

ある秋の日に

めざめるとあなたは泣く
生まれたあの日の朝のように闇から出たとき
人は泣かねばならない
ちからいっぱい 声 張りあげて十月の西日差す部屋で
みえないはずのほこりが
泳ぐ光のなか
この世の不思議に
あなたはくちもとをゆるめ
恍惚として光のなかにある
うごめくほこりを
つかもうとする
やわらかな腕 手のひらおぼえていて
あなたに背を向けて
どうでもいいような仕事に
自分の存在をかけて
しがみついていた愚かな母を
いましかいない あなたを背にしておぼえていて
あなたを胸に抱いて
歌いながら
歩きながら
せかいでいちばんしあわせなふたり運命の糸でむすばれた
たくさんのふたりの一組だと
信じていたこと

子どもが一歳になる前の秋、まだ歩けない子どもを抱っこする機会は多く、子どもはまだ自分の一部のようなものでした。今5歳になり、子どもはどんどん遠くなります。

学生さんたちもみんな、宝です。久しぶりに再会したゼミ生たちと、家庭での家事分担や子育てについて語り合っている自分がいました。

大学は私が来た時に比べて古びて、すべてが老朽化してきました。それでも語学センターには最新のパソコンが入り、図書館もずいぶんきれいになりました。自分が大学生として過ごした大学には、こんなにすばらしい施設はありませんでした。最小限の設備は必要ですが、ぜいたくを言えばきりがありません。

私がよく思い出すのは、北アイルランドのノーベル平和賞受賞者ジョン・ヒュームの「土地があっても人がいなければそこはジャングルだ」という言葉です。ヒュームの念頭にあるのは宗派対立と領有権争いで紛争が絶えなかった北アイルランドですが、そこに住む人々の日々の幸福を切に願う気持ちに深く共感できます。どんなによい施設であっても、人がいなければ建物はただのコンクリートの箱です。学生も教員も含め、学び続けようとする一人ひとり、そして学びの場を支えてくださる多くの方々がいる、そこからすべてが始まること。コンクリートの箱を居心地のよい場所にしていくのは人。ここで多くの人が私を育ててくれました。人を育てる人がいる大学でした。これからもそうであってほしいと願います。

ここでかけてもらったやさしい言葉、忘れがたい人の記憶を胸に、来た時よりも古くなった体に鞭打って、次の職場に向かいます。

BD 連帯画文エチュード 4

没骨・水中遠近法で描く、プールの初恋
バスティアン・ヴィヴェス『塩素の味』ほか

大井健地 (名誉教授・芸術資料館もと館長)

バスティアン・ヴィヴェスは(1984-)はまだ32歳なのだ。『塩素の味』*1は名品だ。過去の歴代強力BDが男性向けで、ともすると活劇表現に作家才覚の火花が散ったのに本作は静か。屋内プールが舞台。全篇、薄エメラルドグリーンの特徴あるパソコン指定の一角がたゆたっている(たゆたうは「揺蕩う」だ)。「塩素の味」というネーミングもうまい。辞書をひくと、塩素(元素記号Cl)は漂白、消毒、殺菌剤に使う。プールの特有の匂いがこれだ。塩素は常温で黄緑色の気体というが、その「味」は的確には言えない。だが、ローカル都市の公設プールの水の味は、国や年齢を越えておおくの人に通じあう体験の歩みの記憶になりうるだろう。

あの感じ…単に誤嚥したプール水の味だけでなく、咽喉・鼻・中耳・三半規管や呼吸器などがひとまとまりであることを判らせ水泳が身心の全身運動であることを得心させる。そしてそれだけでなく特定の、このBDのこの「味」とはズバリ言うところの初恋の味なのである。「カルビス」という日本産飲料水ばかりではない。「塩素の味」こそ、ほのかな初めての恋に至るべき、そして当然形をなす間もなく拡散する感覚に附随した味わいなのであった。

☆
整体師の強引な勧めでプールに通いだした小天狗顔のヤング。目的は競技でも遊戯でもなく、脊椎湾曲症治療のためだが、彼は五体感覚にジーンとくることを経験した。
美しい女性が、明瞭な意志を表明して高らかにカラカラと笑うあっぱれな図は、凡庸な僕をはじめとする男どもにはあこがれの図像だが、プールのなか、小天狗ヤングの側にいるその女性はどうか。泳ぎ上手で表彰されるほどの若い女性の登場。ふと“永遠の女性”が近づいてきていたのではなかったか。きれいな素早い、みずみずしい若い身体。露骨な水中濡れ場は描かれていない。
平衡感覚が破綻する事態は起きない。
少しの間のすれ違い——「潜水なんてしたくないわ。プールに泳ぎたいの」。
内蜜の甘い告白?——「肘を高くあげて、手でわきの下に触る感じ」。
短期の泳法講義——「手の平を外に向け…腕を折りたたむ。脚は…こごような感じ」。
孤独と「超気持ちいい」。
「ひと泳ぎしてくる」…「わたしたち」?
プールの中で口唇の形で示して何と言ったか。

☆

そこまで言うか、との反応も起こしそうだが、作者ヴィヴェスは無輪郭の水中動態シーンは読者が「息を止めて読むとかそんな感じになってくれれば」とのたまう*2。

ヴィヴェスは一作ごとに自己の斬新さを演出している(それだからヒーロー、ヒロインの顔が一定しない)。本作で注目させられるのは水中画面における遠近法の歪曲だ。故意に空気遠近法をゆがめた水中遠近法の描き方。屋内プール施設とは、実に一点透視図法の成立しやすい構造のくせに(刑務所内の看視以上に見晴らしがよい)(男女別の銭湯の2倍、見とおせる)、複眼的移動多視点によるクローズ・アップ多用水陸兼用カメラアイは不安へ不安定へと反確定の方向にコマを進めるかのようだ。



プール底に手と足をつけて

プール内ではメガネははずされ、水中画では骨はなくなる——つまり先述のように水中内の人体シルエットは無輪郭だ。色面だけで表現するたわむれに言えば「没骨彩色」なのである。

“水中別次元遠近法”のもと、端しのない色モノ体として背骨の曲がった小天狗青年は高密度別天地で塩素臭異体験をするわけ。アハレ初恋淡水モズク。

☆

2008年発表の「塩素の味」はヴィヴェス24歳の作品。「期待の新星」「BD新世代の代表」として熱狂的支持を得たという。よく理解できる。むしろ早くに世に受け入れられた者はいいかばかりか、もしかして欠陥みたいなのが生ずることはないかと先まわりして案じたりもするほどなのだ。

2009年発表の「僕の目の中で」については、若くて嬌慢な女子学生は苦手なのでパス。

2010年の「ポリーナ」*3はおすすめ。BD関連諸家も絶賛する。(教育)というテーマ、(芸術)という絶対的謎。「ダンスは芸術だ。学ぶものではない」というボジンスキー先生もいまや自称「私みたいな化石」。だがポリーナは成長した。最終章パリの情景、特に最終コマがいい。僕らは実際、リルケ『マルテの手記』を思い出していいのだ。アパルトマン最上階、出窓をあげ背を向けたポリーナ坐像。彼女の今しているのは見ることを学ぶことだ。

*1 『塩素の味』原正人訳、小学館集英社プロダクション 2013年8月刊。表題作のほか「僕の目の中で」も収録。

*2 「ユリイカ」2013年3月臨時増刊号『総特集・世界マンガ大系』収録の座談会発言。

*3 『ポリーナ』2014年2月刊。訳者、版元は1と同じ。

❀ 春休み課外インテンシブ英語学習プログラム ❀

3月1日(火)～3月31日(木)の春休みの期間中、本学学生(学部、学年不問。大学院生も可。)を対象とした春休み課外インテンシブ英語学習プログラムが開講されました。文字通り英語を“インテンシブ”(集中的)に鍛える、1ヶ月間のこのプログラムは、春休みと、夏休みの2回開講しています。受講者は、毎日1時間以上の学習をすることになっており、休暇期間中にも英語力に磨きをかけていました。今回は23名の学生が受講しました。その中の一人、国際学部4年の音谷江梨香さんにプログラムを受講しての感想、語学学習の目標などを伺いましたので紹介します。



* 自宅からプログラムにアクセスして学習ができます。

次回は、夏休みに開講を予定していますので、受講を考えている人はぜひ参考にしてください。

課外インテンシブ英語学習プログラムを受講して

国際学部 4年
音谷 江梨香

私が長期休暇中の課外インテンシブ英語学習プログラムを受講しようと思ったのは、英語を勉強したい、でも自分だけではやり方がわからないと思ったことがきっかけでした。必修が終わると英語の科目を履修する機会が減ってしまうこともあると思いますが、自分で勉強するということが実際は難しい部分があると思います。やり方が分からないまま時間が過ぎていき、本来なら継続的に日々学習できることが理想ですが、日常の中に埋もれていくことの方が多くのように思います。そのようななか、1ヶ月間を課外インテンシブ英語学習プログラムによって授業と自学の間のよう形で英語に触れる機会があることは、とても良い経験でした。今年度春期を含め3回受講しましたが、集中して取り組めば取り組むほど力はつくと感じました。正直なところ、市大生なら誰もが知っているCALLの感覚を思い出して、休み期間に私は何をやっているんだろうと思う瞬間もあります。でもその後TOEICを受けると、頑張った分だけは返ってくる!という感覚も思い出すことができました。もう次は・・・と思っても何故か申し込みをしてしまうのは、大好きなはずの英語から遠ざかって行くような日々の中で、学期中には難しく感じてしまう英語学習を自宅で行える環境があるならと思ったからです。1ヶ月で全て終わらせるためには今日中にReadingをあと1問進めておこうと頑張る時や、知らない単語を書いたり、間違えた問題は後でやり直したりと、自分のやり方によりどれだけ集中して取り組むかを選択できることなど、ある程度の強制力と自由が同時にあることは英語学習には良い環境なのではないかと思いました。

私のこれからの語学学習の目標はその言語とそれに対する学習を好きだという気持ちを思い出ししていくことです。これまで何度も遠ざかってはやはり学習したいと思う気持ちによって英語や第二外国語として選んだアラビア語に引き寄せられて今また学習することができています。それは好きだという気持ちが消えなかったからだと思います。そしてそれをその都度思い出ししていくことが出来れば、課外インテンシブ英語学習プログラムを受けてみようと思った時のように、学習方法はさまざまな方向から見つかるのではないかと思います。

留学アンケート更新しました!

語学センターホームページの留学アンケートを更新しました!現在44名分のアンケートを学内のパソコンから閲覧できます。留学先は、ドイツ、フランス、アメリカ、韓国、中国、ニュージーランド、イタリアの7ヶ国です。留学にかかった費用や、お勧めスポットなど生の留学体験談を読むことができます。留学を考えている人に役立つ情報が満載です。留学をした人のアンケートも募集中です。体験談・情報のシェアをお願いします。



留学先: ドイツ / ベルリン

留学先: ニュージーランド / オークランド

★留学へ行った学生の皆さんから提供していただいた写真です。

発行日	2016年3月31日	Phone	(082) 830-1509
発行	広島市立大学語学センター 〒731-3194	Fax	(082) 830-1794
	広島市安佐南区大塚東3-4-1	E-mail	lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
編集	堀本真由美、加藤美奈(内線: 6410)	ホームページ	http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html

